



番外編：本人たちの地味な苦労

発達障がいがある方のものごとの捉え方、考え方の特徴を、当事者の意見をもとにマンガにしてみました。

山登りに行くことになりました



なんでイキル? 足もと写ってなから



番外編：役割の違い・アプローチのコツ

支援者にはそれぞれの役割があります。互いに相手の得意とするところや立ち位置を理解することで、支援の役割分担が考えやすくなるかもしれません。



暮らす - 居宅支援だからできること

暮らしを支える中で一般常識をリアルタイムで伝えていけるのが強み。家族の機能を支えることができる

「だめなものはだめ」と伝えることも大事!

親の代理ではなく、あくまでサポーターとしての関わりをめざす



つながる - 相談支援者だからできること

連携先の支援者との情報共有ができて全体を見渡せるのが強み。誰がどこまで何を手伝うかの整理ができる。

チーム内で情報共有を

自分の立ち位置を明確に!



育つ - 教育機関だからできること

時間をかけて関わるができるのが強み。成功と失敗の経験から本人が学べるチャンスをじっくり支えることができる。

「挑戦してみたら!？」と励ます

困る経験こそ学びのチャンス



働く - 就労支援者だからできること

本人を社会に結びつけていくことができるのが強み。社会の中で生きていくという視点をしっかり伝えていける。

サクセスストーリーを本人と一緒に考える

「発達障がいだからしょうがない」という考えからのシフトチェンジ



住む - 居住援助者だからできること

生活に密着したコミュニケーションをとることができるのが強み。その中から生活安定のヒントを得ることができる。

「排水溝見せて!」「ゴミ出した?」を皮切りに